

学校教育ビジョン 〈喜んで登校、満足して下校〉 ・学力向上ロードマップや学校研究を通じた学力向上の取組 ・豊かな心を育てる教育と生徒指導の4つの視点を生かした取組の推進 ・健やかな体づくりと命を守る力の育成 ・教職員の指導力向上と組織的な学校運営の推進 ・家庭・地域との連携・協働の推進と郷土を愛する心の育成									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	今後の改善策(中間)
①教育課程・学習指導	子どもが主役！の授業づくり	子どもたちが自分の考えをもつことができるように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」、教師のコーチング力の向上に取り組む。	研究部 教務部	学力テストでは無回答が多く、自分の考えを持っていない児童が多い。自由進度学習も取り入れ、単元構想シートや評価問題を活用した授業改善に努めている。	【成果指標】 授業改善によって、児童が自分の考えを持つことができたか。	自分の考えを持つことができた児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・12月)	A	98.3%の児童が「自分の考えを持つことができた」と感じている。今後は自分の考えを議論し、話し合えることができるように、自分の考えを明確にして表現できるよう授業改善を行う。
				児童が？を持ち、自分たちで解決していくとする授業づくりに努めているが、教師の発言が多いため、「児童が主役の授業」として十分ではない。より児童中心の授業にしていく必要がある。	【努力指標】 教師のコーチング力の向上を図り、授業改善に努めたか。	「児童が自分の考えを持てる指導に努めた」と回答した教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケートを実施(7月・12月)	A	道徳の授業を中心に、自分の考えを持てる指導を進めることができる。今後は、考えを持つだけでなく、その考えをもとに話し合ったり、課題を解決できるような指導を行えるように授業改善を進める。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	共感的人間関係を育みながら、自己決定できる集団づくり	毎月の生活目標は自分たちで話し合って決め、取り組む。自分や友だちのよさを感じ、伝え合う集団づくりをする。(ChokuCGs)	生徒指導部	自分にはよいところがあると意識しない児童がいる。	【成果指標】 自分にはよいところがあると実感させられたか。	「自分にはよいところがある」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・12月)	C	引き続きChokuCGsに取り組む。また、様々な行事でがんばっていることを全教職員で評価したり、友達のよいところを伝え合う活動を増やしていく。
③キャリア教育・進路指導	主体的活動の重視	児童会やファミリーを中心に児童会活動を企画運営する。教師のフィードバックや子ども同士の認め合いの場などを設定する。	教務部 生徒指導部	昨年度は、肯定的に回答した児童が90%で、どの学年も児童の主体性を大切にしたい取組が行われているが、成長を実感できていない児童もいる。	【成果指標】 児童会活動や学校行事などを通して、子ども自身の成長を実感させたか。	学校生活を通して、自分の成長を実感できた」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・12月)	A	運動会などの行事や後期委員会の活動を通して、子どもが主体となり活動していけるようにし、その中でできたことを評価していく。
④保健管理	自己調整力を働かせた計画力の向上	自らの生活に課題意識を持ち、メディアコントロールを通して、生活をよりよくしようとする力の育成に取り組む。	健康教養部	日常的なメディア利用の実態を自覚しておらず、児童が課題意識を持っていない。	【成果指標】 メディアとの付き合い方に課題意識を持ち、メディアコントロールに取り組んでいる。	「メディアとの付き合い方に課題意識を持ち、メディアコントロールに取り組んでいる」と回答した児童が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・12月)	A	「家族との時間が増えた。」などの第1弾のポジティブな回答を子どもに紹介する。よりプロ第2弾の計画の段階で、メディアから離れたことのできた時間(何をしたいかを記載させ、具体的なメリットを伴った計画を立てさせる。学校保健委員会で、メディアコントロールのメリットを分かりやすく伝える。
⑤安全管理	教師の危機対応能力と児童の危機回避能力の向上	避難訓練と防犯教室の実施	生徒指導部 総務部	教職員の危機対応能力の維持とともに児童の危機回避能力を向上させる必要がある。	【成果指標】 教師の危機対応能力と児童の危機回避能力を向上させることができたか。	教職員の「危機対応能力」が向上したと回答した教職員、自分の「危機回避能力」が向上したと回答した児童がともに A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員と児童に対してアンケートを実施(7月・12月)	C	校内研修で避難時の指導の仕方を共通理解し、危機対応能力を向上させる。また、児童には学活の時間に不審者・地震における避難の仕方を指導する。
⑥特別支援教育	全職員による児童の実態の共有と個に応じた支援	児童理解の会を月1回実施 専門相談員、特別支援教育アドバイザーを必要に応じて派遣要請 児童の実態に応じて個別の指導、少人数指導の実施 支援員の適切な配置	生徒指導部	気になる児童がいたときに共有する体制が整っている。共有後も継続的に児童に応じた支援が必要である。	【成果指標】 児童理解の会を通して児童の実態を共有し、その後適切な支援ができたか。	「児童理解の会を通して児童の実態を共有し、その後適切な支援ができた。」と回答した教職員が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・12月)	A	若プロで特別支援に関する研修を行いさらに適切な支援につながるようにする。
⑦組織運営・業務改善	負担減、時間外勤務時間の削減につながる業務の効率化	校務支援システムの利用を通じた業務の効率化(通知表・指導要録の作成)	総務部	学期末や年度末の通知表や指導要録の作成にかかる業務に多くの時間が割かれている。	【成果指標】 校務支援システムの利用による業務の効率化が図れたか。	校務支援システムの利用による業務の効率化が図れたという教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・12月)	A	通知表においては、所見を書く業務が増え、負担増になったが、所見に書いたことが指導要録に転記できるので、時間的・労力的には効率化が図れる。日頃から、学習や行動の記録をノートや「いいところみつけ(C4th)」書き留めておくことで、さらに所見のスムーズ化を図る。
⑧研修	主体的な研修への参加	教職員のニーズに応じた校内研の実施	教務部 研究部	ICT機器の効果的な使用の仕方を中心とした研修会や、全職員の教師力向上を図る研修会を行っている。	【成果指標】 研究授業や研修会によって教師力向上が図られたか。	ICTの研修において成果があったと感じる教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・12月)	A	100%の教職員が成果があったと答えている。1学期はカフトやジャムボード等の使い方を学ぶ研修会があり、2学期はチャットGPTを学ぶ研修会等が予定されている。教職員のスキルをさらに向上させていく。
⑨保護者・地域との連携	家庭や地域との「めざす児童像」の共有、児童と保護者・地域との積極的な関わり	「総合的な学習の時間」「クラブ」等で家庭や地域の方の協力を得て、地域の教育力を教育活動に生かす。	総務部	児童から地域への積極的な関わりが弱い。	【成果指標】 家庭や地域等の外部人材を活用した教育活動に積極的に取り組んだか。	家庭や地域等の外部人材を活用した教育活動に積極的に取り組んだという教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・12月)	B	2学期以降、各学年1つは、地域の外部人材を活用した学習に取り組む。どのような学習でどのように関わり、どのような力を育成するかを明確にし、外部人材を活用した教育活動が充実したものにする。
⑩教育環境整備	自己存在感の向上、共感的人間関係の構築につながる教室・学校環境の整備	「CCGs」「学び合いハート」「委員会」等で一人一人や集団の頑張りやよさが可視化できる掲示	総務部 生徒指導部	教職員の声掛け、児童の作品や活動の振り返りに対するコメント等、児童を認め、ほめることは増えたが、児童が自分(達)の良さを実感できるところまで至っていない。	【成果指標】 自己存在感の向上、共感的人間関係の構築につながる教室・学校環境を整備できたか。	自己存在感の向上、共感的人間関係の構築につながる教室・学校環境を整備できたという教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・12月)	A	児童が自分のよさを実感できるような環境を整えるのはもちろん、児童同士でも、お互いのよさを認め合えるような活動を取り入れていく。

学校関係者評価	CCC'sの取組はよいので、今後の改善策の取組を推進してほしい。 教職員の時間外勤務時間が長いように感じる。短くできる場所は短くするなど、工夫した働き方改善を推進してほしい。
---------	--